

巻頭言 就任の御挨拶

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授
萩森 伸一



2024(令和6)年4月1日付で、母校である大阪医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室の教授を拝命しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当教室は大阪高等医学専門学校設立の翌々年、1929(昭和4)年6月15日に開講し、山崎春三先生が初代教授として着任されました。以降、教室の運営は武田一雄教授、高橋宏明教授、竹中洋教授、河田了教授へと受け継がれ、この4月より私が6代目になります。本年度で開講95年の歴史ある教室を担当することを大変光栄に存じますとともに、大きな責任を感じております。

私は1983(昭和58)年、大阪医科大学に入学すると同時にグリークラブ(当時は男声合唱団)に入学し、多くの仲間達と楽しく充実した学生生活を送りました。クラブを通じて音声や聴覚に興味を持ち、またグリークラブの顧問が高橋教授であった縁もあり、1989(平成元)年の卒業時には迷うことなく本学耳鼻咽喉科学教室に入局しました。大学病院や関連病院で研修を受け、1996(平成8)年に内耳生理の臨床研究で学位を授与されたのち、1998(平成10)年から2年間、米国ピッツバーグ大学耳鼻咽喉科学教室に留学し、ヒト側頭骨組織病理解剖の研究に従事しました。帰国後は本学解剖学教室の協力を得て、ご遺体の側頭骨を削開して解剖を学ぶcadaver dissectionを繰り返し行い、耳の手術解剖と手術器具の扱いを自ら習得しました。以降、耳科手術・側頭骨外科を専門に、中耳炎や顔面神経麻痺、聴器癌の手術、人工内耳手術などを行ってきました。また顔面神経麻痺については電気生理学的検査やリハビリテーションに他科の先生方やコメディカルの方々とともに取り組み、得られた知見を臨床の場にフィードバックしてきました。

超高齢社会の昨今、難聴の高齢者が増え、難聴とうつや認知症との関連も明らかになってきています。今後は専門の耳科診療をより充実させるとともに、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全体に目を配り、感覚器および腫瘍合わせて年間約1,000件の手術を行う診療科としての更なる総合力アップ

を図ってまいる所存です。また今まで得て来た耳科学の知識、特に側頭骨解剖や手術の考え方、手技の工夫を、次の世代を支える若手の先生方に伝えていきたいと思っています。

コロナ禍の影響で全国的に耳鼻咽喉科・頭頸部外科を志す若手医師が減少し、大学病院を始め耳鼻科勤務医一人ひとりの負担が増大していることが学会でも課題となっています。加えて今年度から医師の働き方改革がスタートし、時間外の勤務に制限があるなかで十分な診療、教育、研究を行わなければなりません。教室員数を増やすことはもちろんのこと、このような時代こそ教室員の心を一つに、お互いを助け合いながら日々の仕事がより楽しく充実したものとなるよう、また教室、そして本学がより一層発展するよう力を尽くす所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 集合写真